

対加投資特集

投資市場としてのカナダ



大阪の日加産業協力セミナーで講演するリーガン大臣

10月13日と14日、大阪と東京で日加産業協力セミナーが開催された。リーガン国際貿易担当大臣をはじめ、リチャードソン外国投資審査庁長官、ケリー労働省上席次官補、リッチー通産省・地域経済開発省次官、さらには民間の主要実業家をまじえた、近來にない大型ミッションによるこのセミナーでは、カナダの投資環境から外国投資審査法、投資優遇策にいたるまで、対加投資の問題点や可能性が全面的に取り上げられた。以下は、このセミナーでの講演を中心にまとめたものである。

国際貿易担当大臣

ジエラルド・リーガン

カナダは国民総生産（GNP）の約三分の一を対外貿易に依存する貿易立国であり、自由かつ開放的貿易を強く支持している。基幹産業を守るために、他の先進諸国同様、暫定的に保護貿易措置をとらざるを得ないこともあったが、他の国々に比べてその頻度ははるかに少ない。人口こそ少ないものの、資源に恵まれすぐれた製造能力をもち、しかも隣りに巨大な米国市場を擁しているカナダは、世界最大の外国投資受け入れ国でもある。その累積額は、昨年、簿価で五百億ドルに達した。資源と将来性が買われた結果であろう。カナダは対日関係をきわめて重視しており、両国の貿易も総額年間八十億ドルにはなっているが、その関係も今や貿易だけでなく投資の方へ発展しようとしている。

日本企業の対加投資は、これまで、資源部門が中心で、工業への投資は少なかった。その点で最近、トヨタ自動車やブリテイツシュ・コロンビア州にアルミ・ホイール工場の建設を決定し、三菱電機がRCAカナダ社のミッドランド工場を買収したことは、日本がカナダを工業投資の対象として前向きに考えているものとして、歓迎している。

カナダには日本から、大手総合商社を含め、多くの大企業が進出している。しかしながら、カナダは大企業ばかりを歓迎しているのではない。産業界の中堅で

ある小企業や中企業にも、カナダとの産業協力を大いに進めていただきたい。連邦政府も、企業の規模に関係なく、進出企業を支援している。

また天然資源に恵まれているカナダは、資源面での日本からの投資および技術を引き続き歓迎している。同時に、日本の企業はカナダが先端技術産業、通信機器、石油天然ガス開発技術などの分野でもすぐれたものをもっていることを認識し、こうした分野にも投資してもらいたい。日本企業にとって対加投資はどういう魅力があるだろうか。

第一に、アメリカ大陸全体を対象とした立地条件を備えており、カナダだけでなく、米国市場をも相手にできる。

第二に、カナダの豊富な資源を長期的に利用できる。

第三に、カナダで現地生産することにより、輸送運賃が安くなり、しかも為替や関税レートの変動に左右されなくなる。第四に、何にもまして、カナダは安全で着実な国であり、信用、支払能力、経済政策などの点で不可測な要素はない。しかも収益性も高い。

安全性、将来性、収益性のいずれから見ても、カナダほど投資先として魅力的なところはない。大きな可能性をもった成長銘柄——それがカナダである。

カナダは、日本からの投資を心から歓迎している。